乙貞
おとさだ

第64号　通巻14巻　第3号
1992年9月1日　発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397
〒524－02
守山市服部町2250番地

はじめに

まだまだ残暑の厳しい日々が続きますが、早稲田の稲はもう、刈り取りを待つばかりです。夏空を背景に垂れ下がる黄金色の稲穂、実りの秋とは縁遠い光景に思えてなりません。稲作が伝わったおよそ二千数百年前は、今ほど稲の結実に斉一性はなく、漸次実った籾を収穫していたと想像されます。石包丁を使い、稲穂だけを摘む収穫方法により、混在する早稲、中稲、晩稲が分別され、各地域に適した種類を生み、今日まで日本の農業の根幹となってきたのでしょう。

【発掘調査だより】

例年になく台風による降雨が多く、発掘作業も大きな影響を受けました。これからの本格的なシーズンに不安が募ります。さて、7～8月の2カ月間に一覧表のとおり、8遺跡11地点で調査を実施し、多くの成果を得ています。調査結果ならびに経過をお伝えします。

［7～8月実施調査一覧表］　（次頁に位置図を掲載）

鬱遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	備考
1吉身西遺跡	守山町	倉庫建築	6.15～7. 6	前号で報告済み
2顯特鬮遺跡	吉身町	個人住宅建築	7.22	補助事業調査
3吉身西遺跡	下之郷町	道路建設	5.16～7.31	
4播磨田東遺跡	播磨田町	共同住宅建築	5. 1～7.31	
5酒寺遺跡	下之郷町	宅地造成	8. 3～8.16	
6古高城遺跡	古高町	宅地造成	8.17～ 25	
7欲賀西遺跡	森川原町	道路改良	8. 1～ 31	
8下長遺跡	古高町	工業団地造成	4.15～	平成3年度からの継続
9酒寺遺跡	播磨田町	店舗建築	6.22～	
10伊勢遺跡	伊勢町	倉庫建築	6.25～	第1地点
11伊勢遺跡	伊勢町	共同住宅建築	7.29～	第2地点

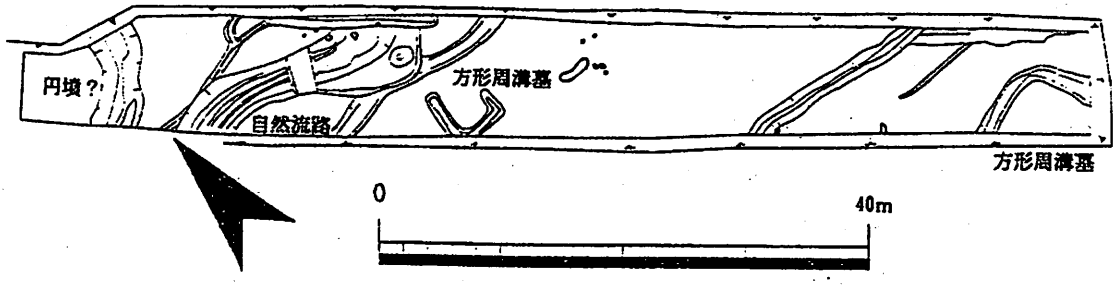
□□□ 終了した調査 □□□

■吉身西遺跡（一覧表、位置図３）

下之郷町字上高田で、都市計画道路建設に先立ち実施していた調査も７月31日に終了しました。調査の結果、上層で古墳時代前期、下層では縄文時代の遺構を検出しました。古墳時代前期の遺構は方形周溝墓２基をはじめ、溝、土壙や自然流路がみつかっています。隣接の県立小児医療センターの調査でも９基の方形周溝墓が確認されていて、今回の２基もこの一群と考えられます。また、調査地北端で検出した溝は円墳の周溝と考えられ、墓域がさらに北側に広がるようです。

自然流路は幅約４ｍ、深さ 1.2ｍの規模で、蛇行しながら東西方向に流れています。この底からは土器や木器が多数出土しました。流路の岸には杭、板材で護岸施設をつくっていて、古代の人々の水に対する備えと考えることができます。

▼吉身西遺跡遺構平面図

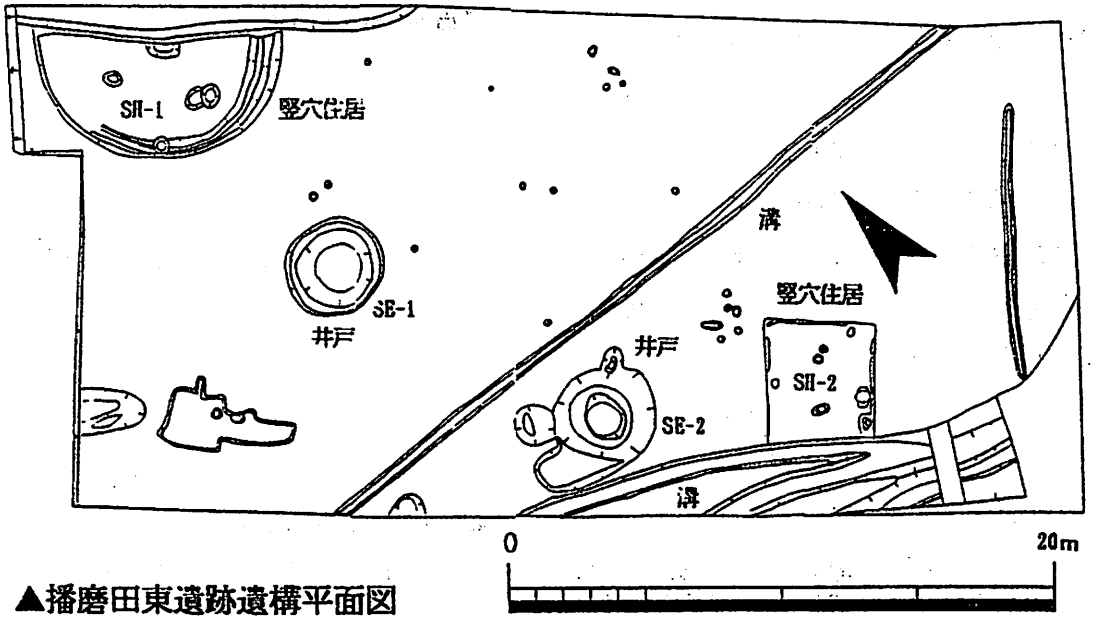


■播磨田東遺跡（一覧表、位置図４）

５月中旬から実施していた播磨田東遺跡の調査は７月末で終了しました。面積約 800㎡の調査地からは弥生時代後期の円形の竪穴住居跡１棟、井戸跡２基、柱穴と古墳時代の住居跡１棟を検出しました。

弥生時代の竪穴住居跡は直径約７ｍもある大きな住居で、井戸跡は直径３ｍ、深さ２ｍ以上の規模で、木枠組などを用いない素掘り井戸です。古墳時代の住居跡は長辺約４ｍ、短辺 3.2ｍの長方形状で、床面には柱穴が２穴しかない、珍しい構造の住居です。この住居からは土器が４点出土しています。

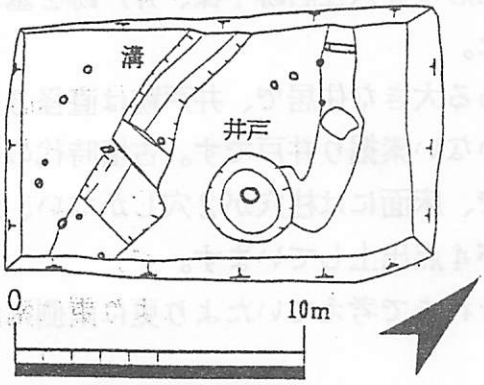
今回の調査によって、播磨田東遺跡がそれまで考えていたより更に南側に広がることが分かりました。



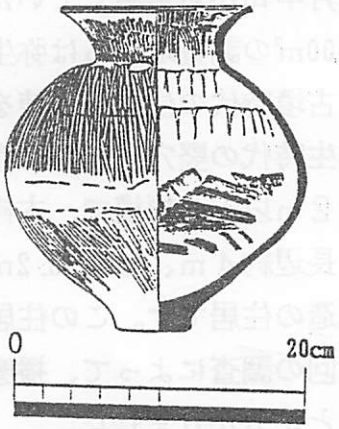
▲播磨田東遺跡遺構平面図

■酒寺遺跡（一覧表、位置図５）

８月上旬に宅地造成工事に先立って酒寺遺跡の調査を実施しました。調査場所は下之郷町字シノで、約 150㎡が対象です。水田耕作土の約60㎝下から弥生時代後期の溝跡、井戸跡、そして柱穴を検出しました。直径約３ｍ、深さ 1.4ｍの素掘りの井戸の底からはほぼ完全な弥生土器の壺が出土しています。さらにこの遺構検出面の40㎝下層からは旧河道もみつかっていて、弥生時代中期から後期の土器が多数出土しました。このあたりでは、弥生時代中期の終わり頃には大きな川が流れていて、そして後期の中頃に埋まってしまった後、人々が暮らし始めたようです。この調査地のすぐ西側には弥生時代中期の大規模な環濠集落跡として知られる下之郷遺跡があります。出土した中期の弥生土器は下之郷遺跡と関係があり、また、弥生時代後期の生活跡は下之郷遺跡で生活した人々が周辺に広がったためと考えることもできます。いずれにしても、今回の調査結果は下之郷遺跡と密接に関連する成果であると言えます。



⇦酒寺遺跡遺構平面図

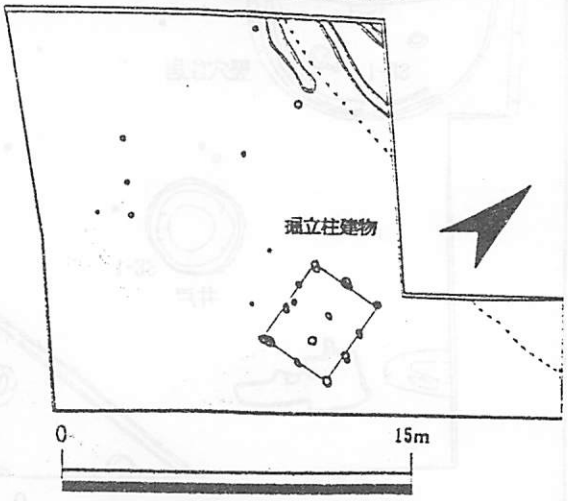


⇨井戸出土弥生土器

■古高城遺跡（一覧表、位置図６）

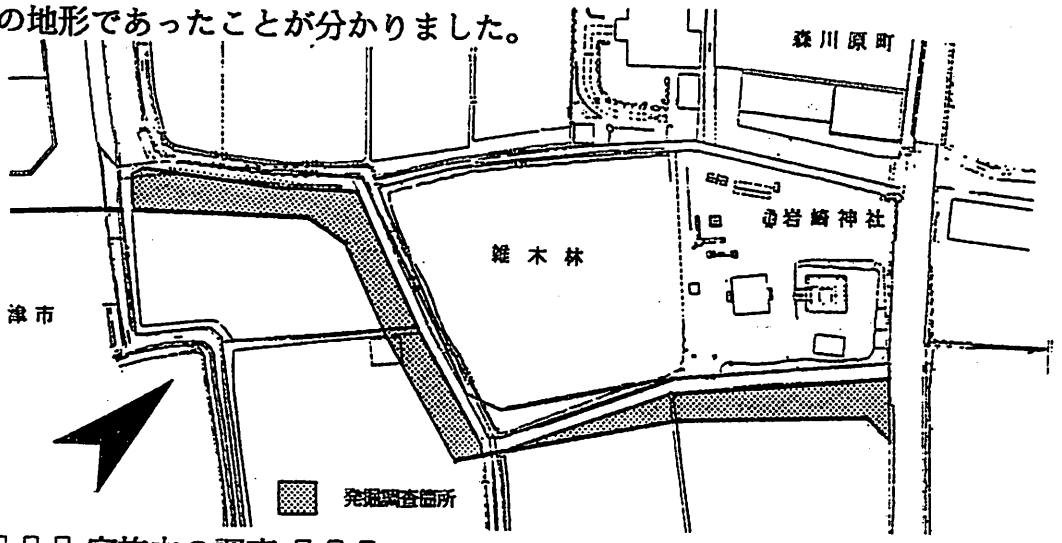
８月17日から古高町字西円前において宅地造成に先立ち実施していた古高城遺跡の調査は25日に終了しました。調査面積は約 500㎡で、古墳時代終末の掘立柱 建物跡１棟と溝１条等を検出しました。掘立柱建物跡は南北(桁行)３間、東西(梁行)２間の規模で、床束をもつ高床式の建物です。出土遺物はなく時期を限定できませんが、建物の側の溝から７世紀めの須恵器坏蓋片が出土し、建物もこの頃と考えられます。

▼古高城遺跡遺構平面図



■欲賀西遺跡（一覧表、位置図７）

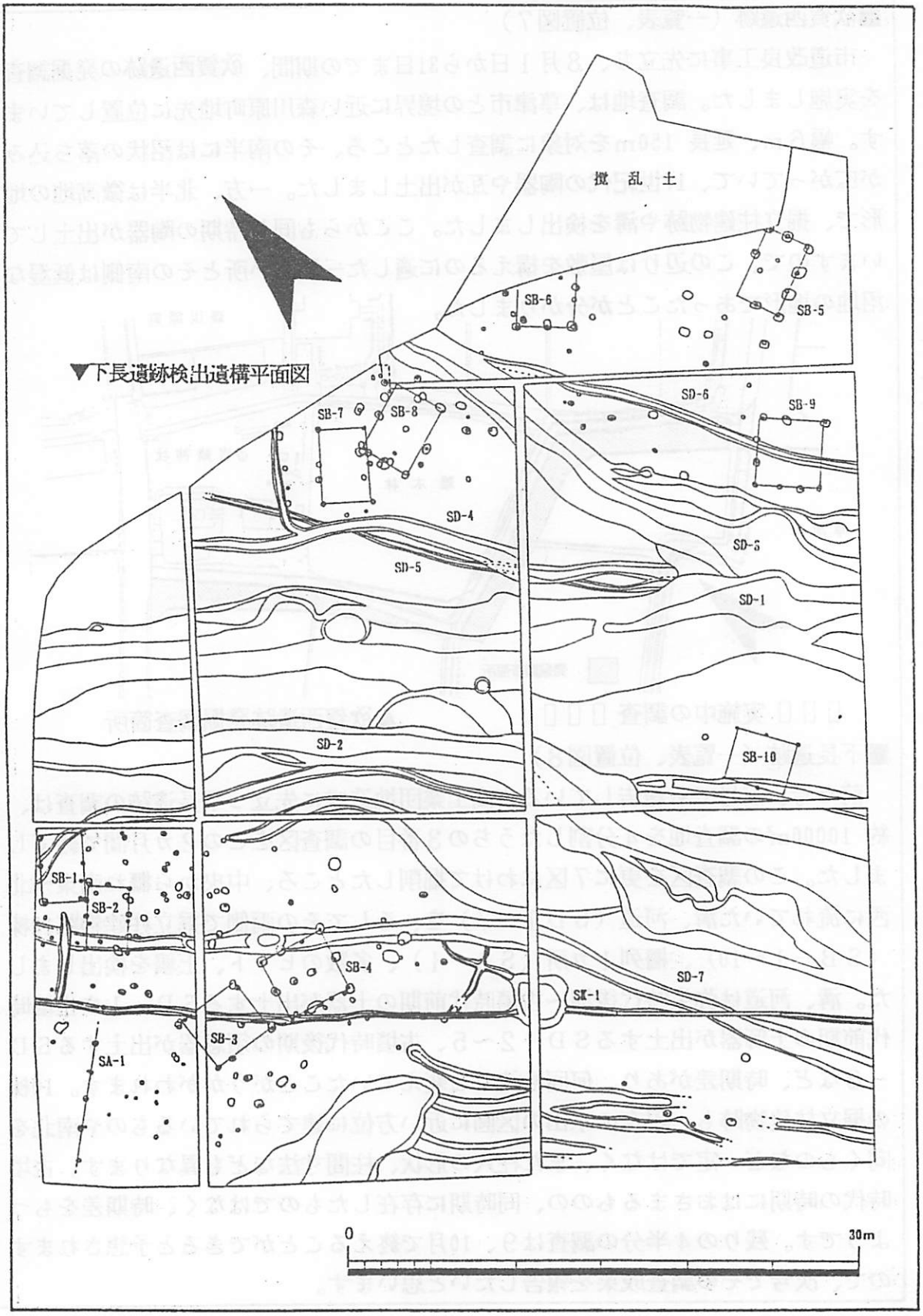
市道改良工事に先立ち、８月１日から31日までの期間、欲賀西遺跡の発掘調査を実施しました。調査地は、草津市との境界に近い森川原町地先に位置しています。幅６ｍ、延長 150ｍを対象に調査したところ、その南半には沼状の落ち込みが広がっていて、17世紀代の陶器や瓦が出土しました。一方、北半は微高地の地形で、掘立柱建物跡や溝を検出しました。ここからも同じ時期の陶器が出土していますので、この辺りは屋敷を構えるのに適した一段高い所とその南側は低湿な沼地の地形であったことが分かりました。



▯▯▯ 実施中の調査 ▯▯▯　　▲欲賀西遺跡発掘調査箇所

■下長遺跡（一覧表、位置図８）

前々号、前号でも報告している古高工業団地造成に先立つ下長遺跡の調査は、約 10000㎡の調査地を４分割したうちの３番目の調査区をこの２カ月間で終了しました。この調査区を更に７区にわけて掘削したところ、中央から概ね南東～北西に流れていた溝、河道（ＳＤ１～７）を、そしてその両側で掘立柱建物跡10棟（ＳＢ－１～10）、柵列１カ所（ＳＡ－１）、多数のピット、土壙を検出しました。溝、河道は弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土するＳＤ－１や古墳時代前期の土師器が出土するＳＤ－２～５、古墳時代後期の須恵器が出土するＳＤ－６など、時期差があり、何回も流れを変えていたことがうかがわれます。10棟の掘立柱建物跡も、現在の水田の区画に近い方位に建てられているものや南北を向くものなど一定ではなく、また柱穴の形状、柱間寸法なども異なります。古墳時代の時期にはおさまるものの、同時期に存在したものではなく、時期差をもつようです。残りの４半分の調査は９、10月で終えることができると予想されますので、次号でその調査成果を報告したいと思います。



▼下長遺跡検出遺構平面図

■酒寺遺跡（一覧表、位置図９）

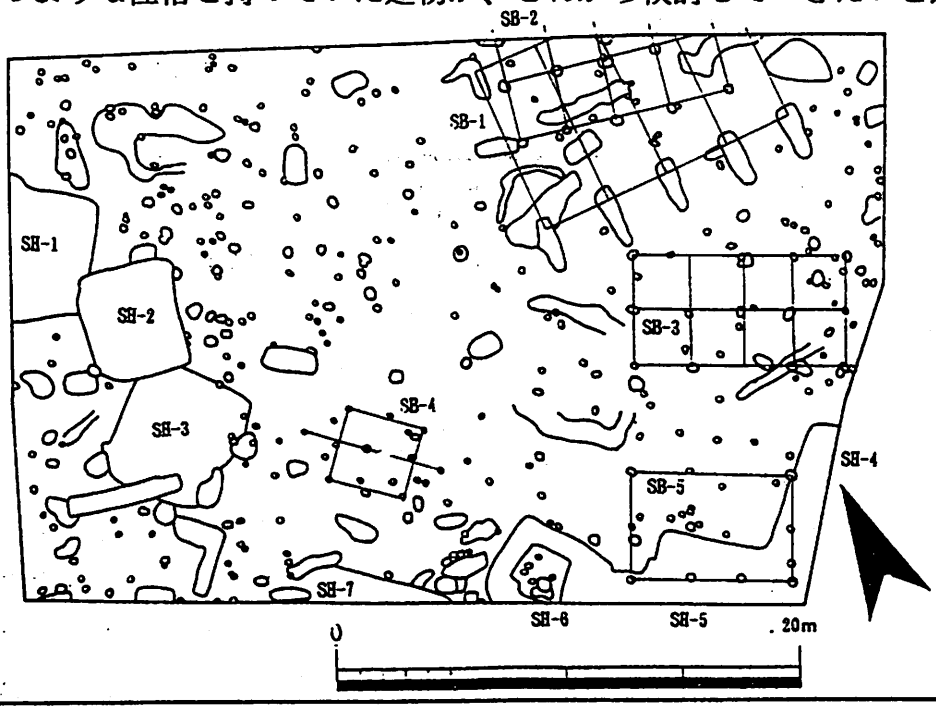
播磨田町地先では、酒寺遺跡の発掘調査を６月22日から実施しています。店舗建築に先立つ調査で、約1800㎡を対象にしています。

現在、約40cm掘り下げたところから弥生時代の方形周溝墓３基と古墳時代の川跡を検出しています。方形周溝墓はその周溝から出土する土器から弥生時代中期の墓であることが分かっています。川跡は幅約６ｍ、深さ２ｍほどの規模で、北西方向に流れていました。土層の堆積状態から２度にわたって埋まったことがわかり、最初の下層の土層からは弥生時代後期の土器、上層からは古墳時代前期から中期の土器、木器が出土しています。

この調査は９月上旬に終了する予定ですので、次号でこの調査成果をまとめて報告します。

■伊勢遺跡（一覧表、位置図10）

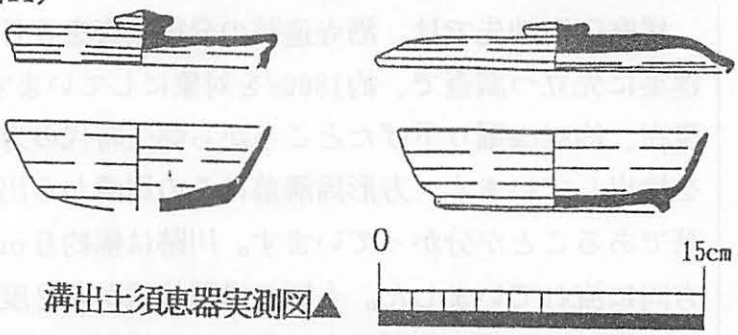
６月25日から伊勢町字中東浦で実施している調査では、竪穴住居跡７棟（ＳＨ-１～７）、掘立柱建物跡５棟(ＳＢ－１～５)、土壙、柱穴などを検出しています。掘立柱建物跡のうちのＳＢ－１は弥生時代後期の建物です。東西(桁行)４間、南北(２間)の規模で、大形の柱穴が整然と並んでいます。柱穴は方形で２ｍ×１ｍほどで、深さは 1.5ｍもあります。柱根は残っていませんが、大規模な建物にふさわしく直径40～50cmの柱が推測できます。このような建物は市内でははじめてで、どのような性格を持っていた建物か、これから検討していきたいと思います。



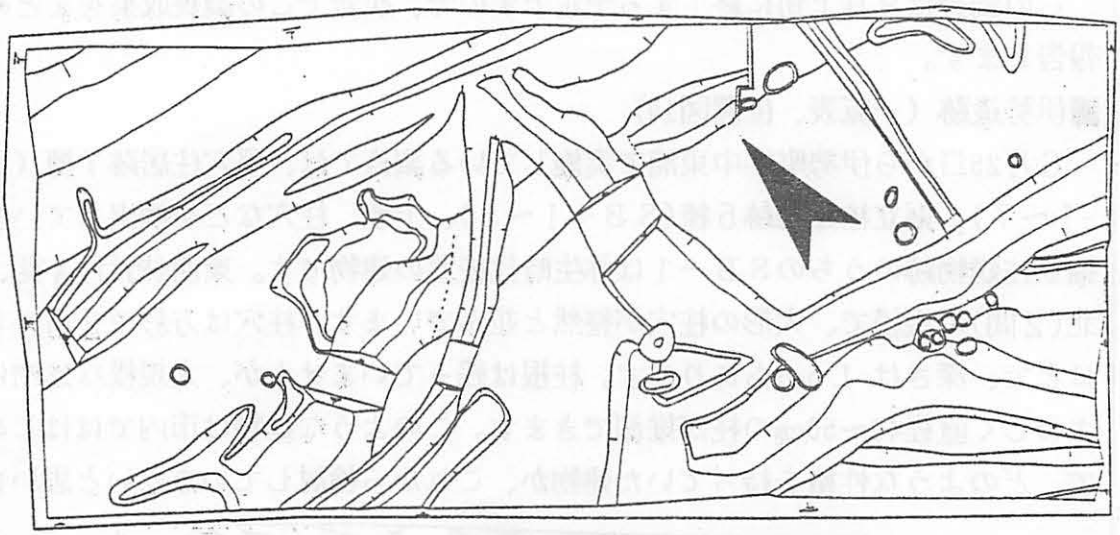
⇦伊勢遺跡遺構平面図

■伊勢遺跡（一覧表、位置図11）

7月29日から伊勢町字南高関において共同住宅建築に伴い、伊勢遺跡の発掘調査を実施しています。これまで古墳時代後期から奈良時代にかけての溝や柱穴を検出しています。溝からはこの周辺に営まれていた集落から流れ込んだものと思われる多量の須恵器、土師器が出土しています。



溝出土須恵器実測図▲



▲伊勢遺跡第２地点遺構平面図

0　15m

◇トピックス◇　センターでは、８月９日(日)、23日(日)に体験学習「土器づくり」を開催しました。９日に16名の参加者が悪戦苦闘しながらつくりあげた土器を、23日に市民運動公園で野焼きしました。薄く整った形の土器をつくること、またそれを割れないように焼き上げる事の難しさを、センター職員共々実感した２日間でした。秋にもう一度土器づくりを行う予定です。

【後　記】今回も発掘調査の話題だけに終始してしまった事を大いに反省しています。「土器づくり」のようなニュースバリューのある行事をほんの数行で処理してしまいました。今後調査だよりとその他の出来事、バランスのよい「乙貞」づくりを心がけます。ところで「セミの鳴き声をあまり聞かなかった夏」という言葉をよく耳にします。秋は秋らしい秋であることを願っています。（馬耳東風）